

投稿規定（2020年10月改訂）

投稿の資格及び受付原稿

1. 投稿資格は原則として東亜医学協会会員に限り、（共同著者も同様。但し、行事報告及び予告などはその限りではない）
2. 原稿は、論文・総説・論説・症例報告・行事報告及び予告・随想・その他漢方医学に関係するものすべてを対象とします。
原稿の字体は、常用漢字に基づく字体（通用字体）とし、旧字体・簡体字・繁体字は原則用いないこととします。
3. 本誌掲載原稿の著作権は東亜医学協会に帰属します。
4. 投稿にあたっては、本協会HP掲載の「患者プライバシー保護に関する指針」を遵守して下さい。

論稿の区分

「論文」とは、漢方医学のある分野の研究成果を公表するもので、一般論文と原著論文とがあり、他誌に未発表のものです。

「総説」とは、（東洋医学の）ある分野について、すでに公表された論文や著書の知識を新たに加筆修正し、まとめたものです。

「論説」とは、漢方医学に関する事物の解説や説明を目的とする文をいいます。

「症例報告」は、会員が経験した症例の治療経過を報告するもので、漢方的な治療方法が読者に理解できるように示される必要があります。簡潔明瞭な報告を期待します。原著論文以外は厳密な形式はありませんが、場合により修正をお願いする場合がありますのでご了承願います。

原著論文

1. 構成は、はじめに（緒言）、研究対象及び方法、結果、考察、結論、参考文献の形式でお願いします。
2. 表題、著者名、所属、要旨、5つ以内のキーワード（いずれも英文及び和文で記述）をお願いします。
3. 別紙に、「本論文の内容は他誌に未発表であり、投稿中でもない」旨を明記し、論文タイトル、著者全員の署名捺印に日付を付して、編集企画委員会宛としてください。

引用文献

引用文献は原則20篇まで、本文末尾に一括記載してください。

〈雑誌の場合〉

著者名・題名、雑誌名、巻号、該当頁、発行年

(例) 漢方太郎・周術期深部静脈血栓症に対する桂枝茯苓丸料エキスの予防効果、臨床漢方、54(2)、P 236-239、2002

(例) Fin A, Reinhardt J, Keen D, et al. Influenza treated with Ephedra Decoction. Traditional Sino-Japanese Medicine, 15, 235-242, 2008

〈書籍の場合〉

著者名・書名、発行所、発行地、該当頁、発行年

(例) 東亜尚助：生薬学概論、漢薬社、東京、P 9-15、2002

〈インターネットの場合〉

著者(機関)名：論文名、サイト名、発表年(最終閲覧日：〇年〇月〇日)、<http://〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇>(電子ジャーナルの場合は、ジャーナル名、巻、号、頁を追記する)

投稿の採否等

1. 採否は編集企画委員会もしくは編集局が決定します(原著論文に関しては、編集企画委員会が委嘱した複数の審査員の意見を参考にして決定する)。編集方針により加筆削除等をお願いすることがあります。また論文区分を編集企画委員会が変更することがあります。
2. 二重投稿にご注意ください。詳細は、本協会HP掲載の「二重投稿について」をご参照ください。

3. 投稿原稿が複数回連続する場合は、およその連載回数をご記入下さい。

4. 投稿原稿の共同執筆者は基本的に6名以内(投稿原稿に寄与したものに限り)をお願いします。

5. 掲載原稿及び電子データは原則として返却しません。手元にコピーを保存して下さい。著者校正は原則として1回です。

6. 別刷は希望者に30部を無料進呈します。それ以上は実費になります。別刷希望者は校正刷の冒頭に部数を明記して下さい。

7. カラー印刷は実費になります。

8. 原稿は原則的に電子入稿とします。電子メールの場合は添付ファイルで投稿可。郵送の場合は打ち出し原稿と電子媒体(CD-ROM、USBなど)をセットにして提出。手書きの場合は、400字詰の原稿用紙に図表(1つ400字に換算)、文献を含め30枚以内にして下さい。FAXでの入稿も可(本誌1頁の文字数は約10000字)。

〔原稿送付先〕

〒101-0006

東京都千代田区西神田2-7-4 島崎ビル3階

東亜医学協会 編集局 宛

電話：03(3264)8410

FAX：03(3265)5995

Eメールアドレス：donei-toa@nifty.com